

# 大地震から身を守ろう！！

## ～地震に対する防災意識と対策～

3年5組35番 山内初音

### 1. はじめに

自然災害。それは危機的な自然現象によって、人の命や人間の社会的活動に被害が生じる現象を言う。日本の法令上では自然災害は「暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害」と定義されている（被災者生活再建支援法2条1号）。そういった自然災害の中でも、特に地震は人々

の関心が高いと思う。それは、日本は地震大国と呼ばれており地震が多く発生していて、被害がもたらされた場合に損害が大きいことを知っているからだろう。内閣府の「平成26年度防災白書」によると、世界の0.28%という少ない国土面積であるのに対し、世界の活火山の7.1%が日本にありマグニチュード6.0以上の地震の18.5%が日本で発生している。

また、2030年までに全世界で目標達成を目指すSDGs（持続可能な開発目標）では、“誰一人取り残さない（Leave no one behind）”をスローガンに進められている。私はこのスローガン通り、私たちの生活の隣り合わせにある地震から誰一人取り残されないようにできることを考えたい、そして地震から命を失う人を減らしたいと思ったためこのテーマを選んだ。

### 2. 序論

地震から多くの命が失われないように私たち高校生に何が出来るだろうか。

まず、南海トラフ巨大地震を例としてあげ、なぜ地震の対策が必要なのか説明する。南海トラフ巨大地震はM8～9で30年以内の発生確率は70～80%であると言われている。しかし、「30年以内」という言葉は「30年後」ではなく「明日」かもしれないということ。たとえ30年以内に起こらなかったとしても地震のリスクは決して消滅しない。むしろ時間が経てば経つほど発生確率分布は高まっていく。

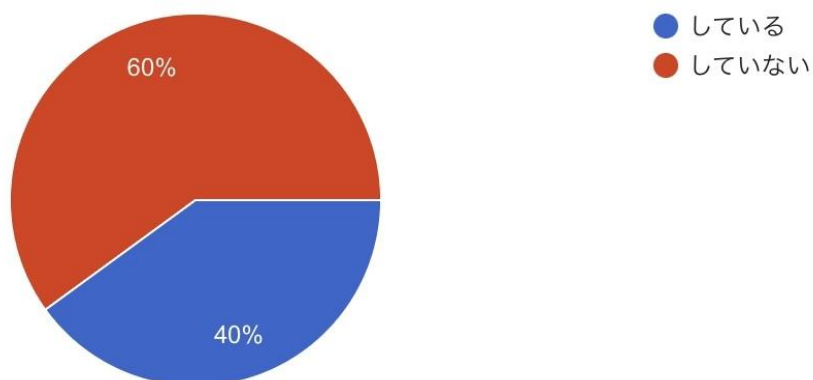
このような南海トラフ巨大地震は奈良にどれぐらいの被害を及ぼすのか。奈良県のホームページによると、マグニチュードは9.1、死者数約1700人、負傷者数は約18000人にも及ぶとされている。しかし、この結果は対策をしなかった場合だと私は思う。今からでも一人一人が意識すると被害を抑えることは可能である。

そこで私は、探究方法として身の回りの国際生へのアンケートとインターネットを主に使用し、人々の防災意識を調査し、その結果から自分達が行っていかねばいけない対策を考えていくことにした。

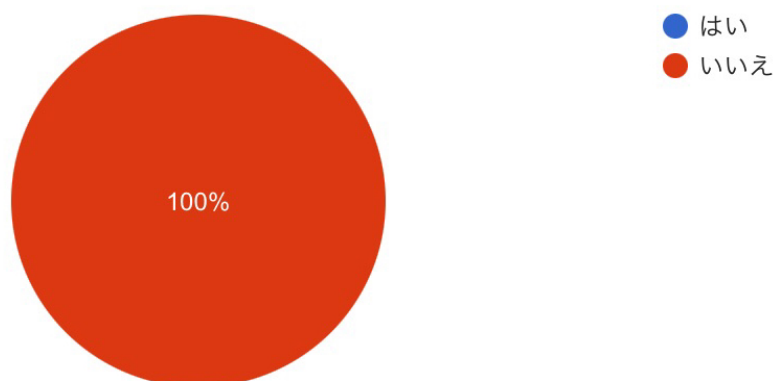
### 3. 本論

まず、国際生の防災意識を確認するために探究週間の時に国際生に対して行った三つの質問の回答から考えていく。

一つ目は、自宅で防災グッズの準備をしているかという質問に対して、しているという人も多かったがしていない人の方が多かった。



二つ目は、学校の避難経路を知っているかという質問に対して、全て知らないという回答だった。



三つ目は、学校で地震が起きた場合、心配なことはあるかという質問に対して、どう避難したらいいかわからない、親への連絡方法、冷静に判断できるかなどの回答があった。

このような結果から地震に対して万全な対策をしている人は少ないということ、自宅と学校両方の面から対策をしていく必要があることがわかった。また、地震に対して不安に感じている人は多いにも関わらず、対策をするところまでいけてない人が多いということも分かった。

そこで、色々な場面での地震のための対策と起きた時の対応をそれぞれ考えた。

初めに、自宅での地震に備えた対策として五つ紹介する。

一つ目は家具が転倒しないよう固定すること。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では犠牲者のほとんどが家屋の倒壊や家具などの転倒による即死状態とされている。家具を固定することによってけがを防ぐことのできるだけでなく、家具がストーブなどに転倒・落下することで発生する火災や、避難経路が塞がれ避難の妨げになることを防ぐことができる。

二つ目は食料・飲料・生活必需品などを備蓄すること。日本政府は国民に対して、「最低3日間、推奨1週間」の水・食料等の備蓄等が望ましいと推奨している。備蓄の例として3日分

の飲料水（1人1日3リットルが目安）や食料やトイレトペーパー、ティッシュペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロなどである。

三つ目は非常用持ち出しバッグの準備をすること。非常用持ち出しバッグはさっきの備蓄品とは用途が異なる。非常用持ち出し袋とは、大きな災害が発生し緊急避難が必要になった際に持ち出すもので、すぐに必要となる物を入れておくものであり、備蓄品はライフラインが途絶えてしまった場合に復旧するまでに必要な最低限の日用品である。それぞれ使うタイミングや置いておく場所が異なるため、目的に合わせて準備をする必要がある。

四つ目は家族同士の安否確認方法を確認しておくこと。別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否を確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所などを事前に話し合っておくべきである。また、家族の電話番号を覚えておくことも大切である。

五つ目は避難場所や避難経路を確認すること。いざ災害が起きた時にあわてずに避難するためにも、自宅の自治体のホームページや国土交通省ハザードマップポータルサイトなどから防災マップやハザードマップを入手し、避難場所や避難経路を事前に確認しておくべきである。豪雨、津波、火山噴火など、災害の種類によって安全な避難場所が異なるためそれぞれ災害にあった避難方法を考えることも必要である。

次に学校での地震に備えた対策を紹介する。

一つ目は避難訓練を実施すること。生徒自身も避難経路を知っておくことは地震が起きた際、冷静に避難することが可能になる。教室からの経路だけでなくどの教室にいても臨機応変に判断し避難することが必要である。

二つ目は地震が起きた際の学校内や登下校中での危険な場所や道などを確認しておくこと。電柱・住宅の門柱や塀・商店等の大きなガラスなど危険物が沢山あるので、事前に知っておくことが必要である。また、普段から地震が起きることを想定し、危険な道は通らないようにするといった対策も必要である。

#### 4. 結論

自宅と学校での地震の対策について考えていく中で、現時点での問題点が出てきた。例えば、学校で十分な対策や教育が行われていないことや防災グッズが店内に並んでいるところがあまり目立たないなどである。地震が起きてから数週間地震を体験した恐怖から対策をしないとという気持ちになり、店舗にも非常食や防災グッズ、家具の固定用品などが目立つように並べられるが、数ヶ月経つと地震のことを忘れ普通に生活している人が多く、店舗にも防災グッズが目立たなくなる。そのため、学校では防災に関する知識を深め防災意識を高めるためにビデオを見たり、ハザードマップを見て危険な場所を確認するなどの授業や、店内では定期的に防災グッズを目立つように並べるなどが必要になってくる。このような対策をすることによって、一人一人の防災意識が高まり、地震によって命を失う人が少なくなると思う。

#### 5. おわりに

地震が発生した際に多くの方が心配していた連絡方法として、携帯電話の回線がつながりにくくなり連絡がとれない場合に高校生でも簡単に使えるサービスを紹介する。

一つ目は、災害用伝言ダイヤル（171）。これは171をダイヤルし、ガイダンスに従って録音の場合は1を再生の場合は2をダイヤルし、連絡をとりたい方の電話番号をダイヤルする

ことで伝言を録音、再生することができる。宛先の電話番号が分かれば、どこからでも伝言の再生・録音ができる。

二つ目は、災害用伝言板（web171）。これは「災害用伝言ダイヤル（171）」のウェブ版である。災害用伝言板（web171）サイト<https://www.web171.jp/>にアクセスし被災地の固定電話や携帯電話の電話番号を宛先に、文字を入力してテキストで伝言を登録する。宛先の電話番号が分かれば、どこからでも伝言の閲覧・登録ができる。これらは災害発生時のみ利用可能だが、定期的に体験利用ができるため一度でも試しておくといざという時に役立つだろう。

最後に、地震について調べて探究をしてきたが自分自身まだまだ分からないことも多くある。防災グッズを準備することやハザードマップを確認するなど、自分にできる簡単なことから始め身近な人に伝えていきたい。対策をしていれば命が失われる確率を少しでも減らすことができる。この探究を無駄にせず、今後に生かしていきたい。

## 6. 参考文献・出典

永田宏和 石井美恵子（2022年）『新しい防災のきほん事典』朝日新聞

奈良県広報広聴課. “県民だより奈良”. 南海トラフ巨大地震発生時の奈良県での主な被害想定（最大値）. <https://www.pref.nara.jp/36957.htm> , (2022.03.18)

内閣府. “防災情報のページ”. 死因のほとんどは建物倒壊や家具の転倒. [https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/09/special\\_01.html](https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/09/special_01.html) , (2022.03.18)

首相官邸. “災害に対するご家庭での備え”. これだけは準備しておこう!. <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html> , (2022.04.12)

“防災ニッポン”. 覚えておきたい「171」！災害用伝言サービスの使い方. <https://www.bosai.yomiuri.co.jp/article/817> , (2022.04.12)